

平成22年度地域のまちづくりに関する施策の提案「テーマ：産業・経済・交通編」

参考資料

目標	方 策	具体的な取り組み	内 容	上河内地区まちづくり協議会検討結果			
				部会名	内容	評価	具体的な方法及び理由
地域農業を拡大させる	方策1 地域農産物を活かした特産化やブランド化の推進	①ゆずやいちごを利用した特産品の開発 ②特産品のブランド化 ③生産・加工・販売までの6次産業化	ゆずやいちごを利用・加工し、付加価値の高い商品開発をめざすとともに、商品のネーミング等にも力を入れ、地域ブランド化を図ることで商品や地域の知名度を向上させる。また、インターネットや直売所等による販路開拓を通じ、流通コストを削減させることも必要である。	文化、交流部会	・特産品のブランド化 ・生産、加工、販売までの6次産業化	B	・いちご農園は経営が成り立つかわからない ・温泉の周辺開発によっては、出来るかもしれない（観光地が近くにあれば） ・ゆずの絞り汁、ドライゆずなどが考えられる ・講習会などを開催すればいい ・ゆずこしょうなど、一部商品化済もある
	方策2 観光農園や体験農園の充実・強化と観光まちづくりとの連携	①ゆずやいちごの観光農園の拡大 ②地域の観光資源（梵天の湯等）を活用した園芸作物の開発と農業の振興	ゆずやいちごの観光農園を創出し、特産化やブランド化により知名度が上がったゆずやいちごを量産する。また、梵天の湯の温泉熱を利用した園芸作物の開発や野菜を収穫体験できる体制を構築し、観光振興と連携させて地域内外の人との交流を推進することで、地域と農業を活性化させる。	文化、交流部会	・ゆずや観光農園の創出と拡大 ・野菜収穫体験農園の開発 ・観光振興との連携	B	・観光農園にしていくのは管理が大変なので難しい。しかし、ゆず園のゆずを収穫して収入源になるといい ・選定によっては観光農園になるのではないかと ・野菜は、保育園児を対象に芋掘り体験などを行っている ・いちごは、生産者が方針を変えないと運営できない
雇用を創出する	方策3 農業法人の設立と農業の6次産業化	①地域ぐるみの農業法人化 ②農業法人による6次産業化の推進	異なる農産物を作っている農家が集まって農業を法人化し、商品の多様化による生産規模の拡大や6次産業化を推進することで、更なる雇用創出の受け皿とする。また、農業法人になるためのノウハウや成功例を参考に、消費者ニーズに対応した柔軟性のある経営方法の検討が必要である。	文化、交流部会	・異なる農産物を作っている農家が集まった農業法人化の設立	B又はC	・企業とのタイアップが必要 ・販売ルートの開発などJAうつのみやに委任 ・上小倉地区の生産者数々が、米作を中心とした法人化を目的に営農集団を立ち上げた
	方策4 地域資源を活かした観光振興	①羽黒山を核とする地域資源を活かした観光振興 ②観光を地域特産品の販売促進の視点からも追求	羽黒山・観光ゆず園・キャンプ場・梵天の湯などの連携による観光コースの設置や観光マップを作成することで、観光振興の基盤を確立する。また、観光案内所を兼ねた道の駅を設置し、来客者へのおもてなしを向上させるとともに、地域の特産品の販売促進にもつなげる。	にぎわいづくり部会	・観光コースの設置や観光マップの作成 ・ホームページ等による観光情報の発信	B	・既存の類似品がある ・歩こうマップ、旧跡マップなどを追加訂正すればできる ・ホームページに取り組み中
	方策5 スマートIC周辺を中心とした産業の開発・誘致	①物流・交流拠点（施設）の開発と誘致 ②農業の6次産業化や観光まちづくりとの連携	スマートICのフルインター化による周辺地域の産業の発展が、地域の経済に大きな利益をもたらすには、インターの利点を活かせる物流・交流拠点の開発・誘致が望まれる。また、その経済効果を地域全体に波及させていくためには、それが地域内の農業や観光と連携し、地域の産業経済の発展につながるように、開発計画を考える必要がある。				
交通網の整備を進める	方策6 道路整備の推進	①安全性を確保するための歩道の整備 ②生活・産業・経済に不可欠な国・県・市道の整備	スマートICがフルインター化されたことにより、大型車両の乗り降りが可能になったため、安全性確保の面から、早急に歩道の整備が必要である。また、生活・産業・経済の改善・発展のため、地域内の道路を整備することも必要である。				
	方策7 公共交通の充実	①ユッピー号の利便性向上 ②地域に合った公共交通の導入	地域の生活・経済を支えるユッピー号の利便性向上をめざして、運行内容（自由乗降など）を検討するとともに、地域の意見を十分に反映させ、利用者ニーズに対応した運行を行う。また、上河内地域のニーズに合った新たな公共交通の導入についても検討する必要がある。				

※ ■■■ は行政に望むもの。他は、主に地域団体が取り組むもの。

平成24年度地域のまちづくりに関する施策の提案「テーマ:子育て・教育編」

目標	方 策	実行プラン (取り組み)	内 容	上河内地区まちづくり協議会検討結果			
				部会名	内容	評価	具体的な方法及び理由
みんなで 見守り 支えあい、 子どもたちが 元気で成長 できる地域	地域主催行事への積極 的参加の推進	①行事参加意欲の向上	地域行事の実態調査に基づき、地域情報紙の歳時記の充実を図るとともに、より魅力ある行事を開催することで、行事への参加意欲を向上させる。	安全、安心部会	・地域行事の実態調査 ・地域行事の掘り起こし	A	・既存地域行事の実態調査を行い、把握（まとめ）することで、地域行事の掘り起こし（魅力ある行事）検討する
		②伝統行事や伝統文化の伝承	伝統行事や伝統文化に関する「まち教授」を募集し、小中学校・幼稚園・保育園と連携して子どもたちに伝えていく。	安全、安心部会	・まち教授を募集 ・学校へまち教授を派遣	A	・地域の中で特技を持っている人を募集（掘り起こし）して登録するとともに、学校と連携を図り、すでに学校が把握しているものも参考に上河内地区全体に提供出来るよう検討する
		③親子ふれあいの場の提供	親子で参加できる行事を企画・開催し、ホームページや学校等で参加を促すことで、親子のふれあいの場を提供する。	安全、安心部会	・既存行事の把握 ・親子参加型行事を企画、開催	A	・地域を中心として伝統行事を守る気運を高め、そのような中で、親子のふれあいの場を提供する機会を確保することを検討する
	地域の連携による地域 交流活動の充実	④地域ぐるみのあいさつ運動 (オアシス運動※)の実施	あいさつ運動を実施するためのボランティアの募集や学校を通じた各家庭へのあいさつ運動チラシの配布により、地域・学校・家庭が一体となったあいさつ運動（オアシス運動）を展開する。	安全、安心部会	・あいさつ運動のボランティアの募集 ・チラシの配布 ・地域全体にあいさつ運動の実施	A	・地域協議会の協力を得ながら、子どもたちの自主的な運動につながるよう検討する
		⑤地域ぐるみのラジオ体操の 実施	学校と連携してラジオ体操を推進するとともに、地域における夏休みのラジオ体操の取り組みの統一を図り、地域全体のイベントに設定することで、一緒になって体を動かす機会を創出する。	安全、安心部会	・地域全体のイベントとして実施 ・ラジオ体操の取り組み内容の検討 ・学校と連携したラジオ体操の推進 ・ラジオ体操を地域のイベントに設定	A	・地域全体のイベントで教えながら推進するとともに、学校と連携を図り運動会等の行事を通じて教えてくように働きかけていくことを検討する
	各種技能者・有識者に よる次世代を担う人材 育成	⑥各種育成講座の開催	さまざまな能力を有する方々の協力のもとで各種講座を開催し、人材育成に繋げる。また、各学校に働きかけ、小中学生を対象に地域マップや名所旧跡DVDを活用した出前講座を開催し、地域の歴史文化などを次の世代に伝える。	にぎわいづくり部会	・さまざまな能力を有する方々の協力のもとで、各種講座を開催する ・小中学校を対象に地域マップや名所旧跡等を活用した出前講座を開催し、地域の歴史、文化等を次の世代に伝える	A	①部会で各種技能者（技術者）を発掘するための募集要綱・様式を作成する ②自治会回覧、チラシ等により募集をかけ各種技能者（技術者）の名簿を作成する ③小中学校、学習センター等で各種技能者（技術者）をPRする ④要請による指導者の派遣や、まち協主催の出前講座を開催する
	スポーツを通じた子ども たちの絆づくりの推進	⑦スポーツ参加機会の提供	子どもたちが気軽に参加できるようなミニサッカー・縄跳び・ドッチボールなどを地域行事に合わせて開催することで、スポーツへの参加機会を子どもたちに多く提供する。	文化、交流部会	・スポーツ内容の検討 ・地域行事に合わせたスポーツを開催する	A	・体育祭で子どもから高齢者まで参加できる種目を予定している
		⑧地域資源を活かしたスポーツ のできる環境づくり	スポーツ指導者の協力のもとで既存施設を活用したスポーツ教室の開設により、子どもたちがスポーツを始めるきっかけづくりを支援する。また、地域スポーツクラブの設置等により、更なるスポーツの充実を図る。	文化、交流部会	・スポーツ指導者の発掘 ・既存施設を活用したスポーツ教室の開催 ・地域スポーツクラブの設置		
	地域における子育て支 援の充実	⑨家庭教育力の強化	乳幼児を含めた子育ての実態調査を行い、調査に基づき子育て相談を充実することで、子育て中の保護者が安心して子育てができる環境をつくる。	にぎわいづくり部会	・子育て実態調査 ・調査を基に子育て相談 ・交流機会の提供	C	・主体は行政と思われる ・できるのは、働きかけ ・現在は、「子育て広場」、「絵本の読み聞かせ」等の事業への協力の実施
		⑩子どもの家の交流	上河内東小学校・上河内西小学校敷地内に子どもの家を整備し、放課後における安全で安心な生活の場を提供するとともに、地域にある3つの子どもの家が連携して合同事業を展開し、子育て中の保護者の交流機会を充実させる。 (合併市町村基本計画付議事項)	安全、安心部会	・上河内地区内の3つの子どもの家が連携し、合同事業を実施する ・子どもを家のスタッフを対象に研修会を開催 ・保護者の交流機会の充実を図る	A	・以前は、子どもを家の交流会を実施していたもので、再度実施することを検討するとともに、保護者の交流機会の充実について検討する。

※オアシス運動・・・あいさつの言葉の頭文字をとったもので、オ「おはようございます」、ア「ありがとうございます」、シ「失礼します」、ス「すみません」を、日頃から言えるように心掛けるための運動

平成24年度地域のまちづくりに関する施策の提案「テーマ:環境・景観・防災・上下水編」

目標	方 策	実行プラン (取り組み)	内 容	上河内地区まちづくり協議会検討結果			
				部会名	内容	評価	具体的な方法及び理由
人と豊かな自然が調和し、安心した暮らしを支えている地域	豊かな水を活かしたまちづくりの推進	①水質の保全	河川の清掃活動の日を定め、定期的な河川の清掃を行うとともに、子どもたちの水環境に対する意識の啓発を行う。また、地域内の水環境を完全に整備することで、安全で安心な水質の管理を行う。 (合併市町村基本計画付議事項)	にぎわいづくり部会	・河川の清掃活動の日を定め、定期的な河川の清掃を行う ・子供たちの水環境に対する意識の啓発を行う(生き物を通じた河川の水質調査) ・地域内の水環境を完全に整備する事で安心して安全な水質の管理を行う	A	・行政、自治会・リサイクル推進協議会が一体に動けば可能 ・身近な所での活動、例えば各自が自宅前の川をきれいにするといった意識付けが必要
		②蛍マップの作成	蛍の生息地調査を基に蛍マップを作成するとともに、定期的な河川の清掃を行い、蛍が生息しやすい環境を維持する。	にぎわいづくり部会	・蛍の生息地調査を基に蛍マップを作成すると共に定期的な河川の清掃を行い、蛍が生息しやすい環境を維持する	C	・蛍のマップの作成は自然保護のためやらない方が良い
		③豊かな水の活用	小水力発電を検討し、豊かな水資源を活用したまちづくりに繋げる。	にぎわいづくり部会	・小水力発電を検討し、豊かな水資源を活用したまちづくりに繋げる	C	・行政がやるべき
	地域ぐるみの環境保全活動の推進	④ごみ「0」運動の促進	毎月、清掃の日を定め、地域全体で定期的な清掃を行うとともに、地元の小中学生にごみ「0」運動に関する啓発ポスターを依頼し、不法投棄があるような場所に設置することで、ごみ「0」の地域を定着させる。	安全、安心部会	・毎月清掃の日を定め、地域全体で定期的な清掃を行う(月1回) ・地元の小中学生に、ごみ「0」運動に関する啓発ポスターを依頼し、不法投棄があるような場所に設置し、ごみ「0」を定着させる	A	・実施することは可能であるが、実施方法や体制(自治会を中心に取り組むなど)再検討する。
		⑤花とみどりのまちづくり	ガーデニング講座やガーデニングコンテストの開催により、地域ぐるみで景観美化活動を推進する。	安全、安心部会	・ガーデニング講座やガーデニングコンテストを開催し、地域ぐるみで景観美化活動を推進する	A	・自治会によって実施主体(育成会・老人会)が異なるので、実施方法や体制については検討する
	耕作放棄地や荒廃森林の有効活用の推進	⑥耕作放棄地の再生	耕作放棄地で草花の作付けや農業体験学習を行い、耕作放棄地を有効に活用する。	文化、交流部会	・耕作放棄地の利用調査 ・耕作放棄地の活用方法と場所の設定 ・耕作放棄地を農業体験学習に利用	C	・「アグリ」に組み込まれている人が増えれば大きくできるようになるが、IAでやってもらったほうがよい
		⑦荒廃森林の再生	地域ボランティアの活動協力を得て、荒廃した森林の間伐を推進し、森林全体を健康にしていくとともに、間伐材を有効に活用する。				
	自然を活かした景観活用交流の充実	⑧地域資源の発見	地域資源育成保全を行うボランティアを募集し、地域に眠っている資源を発掘するとともに、発掘した地域資源と梵天の里歩こうマップを連結させ、地区外の人との交流を深める。	にぎわいづくり部会	・地域に眠っている資源を発掘し、発掘した資源と梵天の里歩こうマップを連結させて地区外の人との交流を深める	実施済み	・マップを作成し実施している
		⑨山田川サイクリングロードの整備	山田川サイクリングロードを整備し、サイクリングターミナルを設置するとともに、サイクリングロード沿いを花でいっぱいにする。	にぎわいづくり部会	・山田川サイクリングロードの整備	B	・まちづくり懇談会にて行政へ要望済み ・市長からの回答を得ているので、整備後(植栽など)なら部会で対応可能
		⑩ハイキングコースの整備	羽黒山周辺のハイキングコースを整備し、羽黒山周遊コースと名所旧跡と連結させた地区内ハイキングコースを設定する。	にぎわいづくり部会	・羽黒山周辺のハイキングコースを整備し、羽黒山周遊コースと名所旧跡を連携した地域内ハイキングコースを設置する	A	・だいだらぼうの会で、案内看板の設置を行い、コースの整備を実施中
		⑪西鬼怒川堤の整備	西鬼怒川堤に桜(黄桜など)を植林し、上河内の桜の名所に位置づけることで、地域内外の人との交流を推進する。	にぎわいづくり部会	・西鬼怒川堤に桜(黄桜など)を植林し、上河内の桜の名所に位置づけることで地域内外の人との交流を推進する	C	・桜を植える場所による許認可、予算面の問題がある ・桜ではなく草花ならば可能
	災害に強い地域づくりの推進	⑫災害対策の強化	災害に関する地域調査を行い、地域に合った災害対策を検討するとともに、多くの住民参加による防災訓練を通じ、各自治会の連携を強化するなどして防災意識を高める。	安全、安心部会	・災害に関する地域調査 ・上河内版ハザードマップの作成 ・地域全体で防火訓練の実施 ・災害時緊急用具の適正保管	A	・現在実施していることを継続するとともに、自治会の協力を得ながらハザードマップの作成などの実施を検討する
		⑬井戸水マップの作成	地域にある井戸水調査(場所・水質)を行い、調査に基づく井戸水マップを作成することで、災害時の飲料水を確保する。	安全、安心部会	・地域にある井戸水調査(場所、水質)	A	・地域にある井戸水を把握し、井戸水調査を行い、災害時に対応できるよう検討する

平成24年度地域のまちづくりに関する施策の提案「テーマ:健康・福祉編」

目標	方 策	実行プラン (取り組み)	内 容	上河内地区まちづくり協議会検討結果				
				部会名	内容	評価	具体的な方法及び理由	
地域の人々が生きがいを持ち、心豊かで元気に暮らしている地域	方策1 高齢者の活動機会の充実	①老人クラブ等の強化による生きがいづくり	人と人との繋がりを大切に、老人クラブ等への加入促進を図るための声かけ運動を継続的に行い、組織を強化させ、更なる活動の充実を図ることで、生きがいづくりを推進する。	安全、安心部会	・老人クラブへの加入促進を図る	A	・現在、方策にあるような活動について実施しており、継続して推進を図る	
		②高齢者の社会参加の促進	上記の高齢者団体と連携を図りながら高齢者ボランティアバンクを設置し、ボランティア活動を行うとともに、高齢者ボランティアと地域団体との連携を強化することで、ボランティア活動の更なる充実を図る。	安全、安心部会	・高齢者ボランティアバンクを設置する ・高齢者ボランティアと地域団体との連携を強化する ・市のボランティアセンターを活用する。	A	・現在、方策にあるような活動について実施しており、継続して推進を図る	
		③世代間交流の充実	地域における三世交代事業(※)を推進するとともに、高齢者が地元の幼稚園や保育園に出向き、園児に昔ながらの遊びや伝統工芸等を伝えることで、世代間交流を推進する。	安全、安心部会	・高齢者が地元の幼稚園や保育園に出向き、園児に昔ながらの遊びや伝統工芸等を伝えていく ・地域に於ける世代間交流事業の推進	A	・現在、方策にあるような活動について実施しており、継続して推進を図る	
	方策2 世代間交流を通じた生きがいづくりの推進	④温泉施設と保健センターの有効活用	温泉施設と保健センターが連携して健康づくり教室を開催するとともに、既存の健康づくり教室のPRを強化し、多くの方が参加できる機会を提供する。	安全、安心部会	・温泉施設と保健センターが連携して健康づくりの教室を開催する ・既存の健康づくり教室のPRを強化し、多くの方が参加できる機会を提供する ・意見交換の実施(梵天の湯、保健センター、地域)	A	・現在、方策にあるような活動について実施しており、継続して推進を図るとともに、健康マップを作成しているため活用を図る	
		⑤歩くことによる健康づくり	上河内にある歩く会のネットワークを強化し、上河内地区全域のウォーキングデーを定め、温泉施設を中心とした周辺の散策などを行う。	にぎわいづくり部会	・上河内地区にある歩く会のネットワーク化を図る ・ウォーキングデーを定め梵天の湯周辺を散策	実施済み	H26年度上河内ふれあい祭りで同日開催を計画、その場合 ①「歩く会」で実施計画(案)を作成する。(コースの設定、PR方法、参加者取りまとめ、協力者の依頼等) ②実施計画をにぎわいづくり部会で検討 ③まち協が、集客を見込める参加方の地域イベントとして実施する	
		⑥高齢者に配慮した温泉施設の再整備	利用者ニーズ調査に基づき、高齢者にやさしい温泉施設内の整備を行うことにより、安心して利用できる施設を提供する。 (合併市町村基本計画付議事項)					
	方策3 温泉施設等を利用した健康づくりの推進	⑦食とふれあう機会の提供	地元の食材を使用した料理教室などを行い、食の大切さを地域に広く伝えるとともに、次の世代に食文化を継承するための会食会などを開催する。	文化、交流部会	・地元の食材を利用した料理教室などを行う ・食の大切さを広く伝えると共に次の世代に食文化を継承するため、会食会などを開催する	A	・米粉だけでなく、地元の食材を活かした食育の推進 ・現在、伝統食(行事食)の資料収集中(町時代に作ったはず)	
		⑧学校と連携した食育活動	学校教育の中で農業体験を拡大するとともに、自分で収穫した野菜を使用して食育教室を開催することで、次の世代に食の大切さを伝えていく。	文化、交流部会	・学校教育の中で地場産野菜の栽培収穫に参加 ・小中学生を対象に食育教室を開催	A		
		⑨地場産の野菜等を使った料理の開発	地場産野菜等を使用したメニューの開発や上河内の郷土料理など、上河内の食文化を地域内外に波及させる。	文化、交流部会	・地場産野菜を使ったメニューの開発 ・郷土料理や開発した料理を地域内外にPR	A		
	方策4 地元の新鮮な食材を活かした食育の推進	⑩高齢者の外出意欲の向上	高齢者の趣味や特技など活かした発表会などを開催することで、高齢者の外出意欲を向上させる。	安全、安心部会	・高齢者の趣味や特技を活かした発表会などを開催し、高齢者の外出意欲を向上させる	A	・特技を持っている人など埋もれている場合があるので、再調査する ・「まち教授」のリストも年数が経つので再調査したほうが良い	
		方策5 高齢者の外出支援の充実	⑪デマンドタクシーを利用した外出支援の強化	多くの高齢者が進んで外出できるような地域に合ったデマンドタクシーの運営により、高齢者の外出を支援する。				
			⑫高齢者の身近なふれあいづくりの場の提供	隣近所・公園・公民館など、いつでも集まれる場所を高齢者に開放することで、高齢者の趣味や特技などを活かすことができるふれあいの場を提供する。	にぎわいづくり部会	・高齢者の身近なふれあいづくりの場の提供	実施済み	「参考」 ・社協の補助金24,000円を活用したふれあいサロンを2箇所で開催しており、これからも増加の傾向にある

※三世交代事業・・・子ども・保護者・高齢者が一堂に会し、竹とんぼなどの昔遊びやさまざまな交流機会を通じ、お互いにもたらす良い効果や世代の枠を超えた絆をより深めるために実施している事業